

マダニが媒介する新しい感染症 SFTS(重症熱性血小板減少症候群)



タカサゴキララマダニ

早期発見、早期治療が大切！！

問1: SFTSってどんな病気？

2011年に初めて特定されたSFTSウイルスに感染する事で起こる病気で、6日～2週間の潜伏期を経て、**発熱、消化器症状**(食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛)で発症します。重症化すれば、死亡することもあります。

問2: どのように感染するの？

SFTSウイルスを保有しているマダニに咬まれることにより感染します。マダニの中でも、ウイルスを保有しているマダニは極めてまれですが、発病すると重症化することもあるので十分気をつけましょう。この病気を媒介するマダニは、家ダニなどとは違う種類で、10mmほどの主に野山に生息しているマダニです。

問3: どのように予防すればいいの？

マダニに咬まれないことが重要です。草むらや山など、ダニが生息する場所に行く場合には、**長袖・長ズボン・長靴、手袋、首にタオルを巻くなど、肌の露出をできるだけ少なくする**ことが大切です。虫除けスプレーも一定の忌避効果が得られます。ペットなどの身近な動物にも気をつけましょう。
屋外活動後は入浴し、マダニが付着していないか注意深く全身チェックしましょう。

問4: もしマダニに咬まれたらどうしたらいいの？

マダニ類の多くは、皮膚にしっかりと口器を突き刺し、数日間吸血します。無理に引き抜こうとすると、口器の一部が皮内に残ってしまうことがあるので、医療機関で処置してもらってください。**咬まれた後1～2週間は、発熱、嘔気、下痢などに注意しつつ、朝夕に体温を測り、裏面の体温表に記入し、熱が出たら直ぐに医療機関を受診**しましょう。

徳島県医学・感染症専門員 馬原 文彦先生監修

徳島県保健福祉部 感染症対策課